

1.長期成長ビジョン

社会構造の変化に伴う業務用フィリング事業の需要増加に対応することで国内外の食生活の充実に貢献する
2031年7月期までに**売上高18,952百万円、成長率+50%を実現**する

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

「感動してもらえる食品づくりによって、豊かな食生活に貢献する」

- 業務用フィリングメーカーとして、安定した業務用フィリングの生産体制によって国内外の豊かな食生活に貢献するとともに、製パンメーカーだけでなく外食、中食等「食」を提供する市場に対して**フィリングによって新たな価値を提供する**。
- 当社は、強みである製品開発力に磨きをかけ、足元のニーズを確実に充足するとともに、**効率的かつ大量生産ができる製造体制を構築**することによって、**国内外の新たな消費者ニーズに応える**ことで、長期的な事業成長を実現する。
- 海外パン市場、特に**アジア市場への進出に向けた社内体制の強化**に取り組み、国内製パンメーカーの海外戦略のパートナーとなることで、日本のみならずアジア圏全体のパン食文化発展に貢献し、持続的な成長を実現する。
- これまで**フィリングを自社生産してきた外食、中食（コンビニエンスストア・スーパーマーケット等）、スイーツ（カフェ等）等の市場に向けて販路を拡大**する。主原料と比較して価格優位性もあり、機能性も高い業務用フィリングを活用することで、労働力不足の状況にあるこれらの業界における省力化・効率化を支援するとともに、価格弾力性も付与することで私たちの生活の根幹をなす食文化の保全を行う。
- 従業員の成果に正しく報いることを掲げて、高度人材を採用して長期的な事業成長を実現するために賃上げ等により採用競争力を高める。

会社全体の売上成長目標（～2031年7月期）

- 売上高成長率150.0%（2024年7月期比）
- 売上高増加額63億円（2024年7月期比）

会社全体の賃上げ目標

- 0.97%（直近事業年度～基準年度）
- 6.15%（基準年度～事業化報告3年目）

外発的動機

- 労働人口の減少を背景とした労働力不足や原材料の高騰により、従来フィリングを自社生産していた外食市場やコンビニエンスストア（CVS）・スーパーマーケット（SM）等の中食市場、スイーツ市場において**省人化、効率化を目的としてフィリングを外製化する需要が高まっており、業務用フィリング市場は拡大傾向**。
- 業務用フィリング市場において最も重要な顧客であるパン市場では、共働き世帯、単身世帯の増加、「タイムパフォーマンス（タイパ）」といった新たな価値観の広がりを背景に食事に手軽さを求める消費者の増加により、**手軽な食事の代表格である菓子パン・総菜パンの売上は増加している**。
- コンビニエンスストアの台頭により、消費者ニーズは多様化・高度化しており、**商品ライフサイクルの短期化、多品種少量化、高品質化が進んでいる**。
- アジア市場において、経済成長に伴う中間層の増加により高い市場成長が見込まれるとともに「**日本のパン食文化**」の**アジア圏での支持が高まりつつあることから**、当社の主要顧客である製パンメーカーやCVS等が海外進出を進めており、ベーカリーフィリングの需要も拡大している。

内発的動機

- 当社は**社是「食品による国民の体力増強に奉仕する」のもと**、戦後の大阪の町で創業し、フィリング（中具）メーカーとしてパン食文化形成の一端を担ってきた。
- 創業以来、常に安全・安心でおいしく、健康に良い商品作りを追求し、顧客ニーズに応じた商品開発力を強みに、大手製パンメーカーに訴求することで信頼関係を蓄積してきた。
- 近年では国内パン業界全体の成長は以前ほどの勢いはないものの、海外市場における「日本のパン食」拡大に加えて、従来フィリングを自社生産してきた業界における**フィリング需要の拡大による成長機会を獲得していくために生産力の増強が必要**である。
- 収益率が低く過当競争状態にある食品製造業においては、収益性の改善による賃上げ等により人員を拡大し、更なる売上拡大につなげる良いサイクルを実現するためにはリスクを伴う大規模な賃上げが必須と考えている。

2.補助事業の概要

業務用フィリングの海外市場成長・市場拡大による需要増加に対応するため、生産能力の増強を図る
加えて、出荷工程等ノンコア業務の自動化により生産部門を省人化し、労働生産性の向上を実現する

補助事業の
背景・目的

- 海外パン市場の成長、外食・中食・スイーツ等へのフィリング市場拡大による需要増加に対して当社生産能力が不足しており、将来の継続的な事業成長を実現するべく生産能力増強及び省力化による労働生産性改善を実施する。

事業費
(補助額) 20億円
(6.6億円)

設備投資の
内容

- ①生産能力増強
 - 国内外での業務用フィリングの需要増加に対応するべく生産能力を増強する。
生産量：25,400t（2024年7月期）⇒ 43,600t（2031年7月期）
 - 業務用フィリングのニーズ拡大に伴い需要が増加している外食・中食・スイーツ等市場に向けて、小容量品の量産が可能な製造ラインを構築する。
- ②省力化
 - 業務の標準化をしやすいノンコア業務において、工程自動化を実現することで生産量の向上及び省人化を実現。
 - 外食・中食・スイーツ等市場に需要の高いフィリングのボトル充填を自動化し、効率生産を実現する。



生産能力増強	
設備投資	投資金額
ブラコン洗浄室増設	90百万円
受水槽増設	60百万円
原料倉庫増設	500百万円
原料倉庫移動ラック	50百万円
物流システム	20百万円
製品冷却設備	280百万円
冷凍・冷蔵庫	42百万円
大型ニーダー	150百万円
シート用包装機	34百万円
省力化	
設備投資	投資金額
ボトル充填機	58百万円
AI選別機	38百万円
箱詰め工程の自動化	300百万円
充填後工程の自動化	110百万円
製品搬送設備の新設	300百万円

目標値

項目	2027年度(2028年7月期) (基準年度)	2030年度(2031年7月期) (基準年度+3年後)
労働生産性 (単位：万円/人)	825万円/人	1,276万円/人 (年平均上昇率+15.7%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	558万円/人	669万円/人 (年平均上昇率+6.2%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	-	- (年平均上昇率+5.0%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	326人	337人